

ひとづくり

第8号

弓削商船高等専門学校 情報工学科 広報誌 2015(平成27)年3月発行



全国高専プロコンで準優勝／CVG 四国で優勝

10月18日～19日に、岩手県一関文化センターにおいて開催された第25回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（高専プロコン）課題部門において、スマートフォンを用いた災害時用情報共有システムを出品した本校学生チームが、優秀賞（準優勝）を受賞しました。本大会課題部門では、予選審査において56テーマの中から21テーマが選出され、全国大会に出場しています。今年度の課題部門のテーマは「防災・減災対策と復興支援」で、宇崎裕太君（4年）、瀬尾敦生君（4年）、肥田琢弥君（4年）、山本愛奈さん（4年）の4名が、「光陰如箭—A ray of hope—」という作品で出場しました。

大規模災害発生時においては、避難所や救助隊などの組織の連携が必要不可欠であり、そのために最新の情報を共有することが最も重要で、東日本大震災では、各種インフラの断絶によるシステムダウンが情報共有に大きな支障をきたしました。これらを踏まえて、本作品では、災害の発生による各種インフラ断絶時でも機能する情報共有の仕組みを、誰もが持っているBluetoothやWiFiといった近距離無線通信を使用して実現しました。

また、本作品は、2月6日に高松市において開催された第12回キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）四国審査会のテクノロジー部門において、四国経済産業局長賞（優勝）も受賞しました。本審査会は、四国地区の大学や高等専門学校の学生がビジネス部門とテクノロジー部門でキャンパスベンチャーを提案する大会で、応募総数44件の中から9件が審査会に選ばれています。3月6日には全国大会に出場し、入賞は逃しましたが、大学生に負けないプレゼンテーションを行いました。

全国高専プロコンと CVG 四国で大活躍



トップ記事で紹介した両コンテストにおいて、本校情報工学科の学生チームが、上位の賞を多数受賞し大いに活躍しました。

まず、檜垣俊樹君（専攻科1年）、村上麻矢加さん（5年）、岡野さくらさん（5年）、亀島加奈恵さん（5年）、福羅亜利沙さん（5年）によるチームは、現状の見守りに ICT を取り入れ利便性を高め、さらに災害対策を施したシステムを作成し、全国高専プロコン課題部門で特別賞（第3位）、CVG四国ビジネス部門で日刊工業新聞社賞（第3

位）を受賞しました。

また、古谷勇樹君（専攻科1年）、林真史君（5年）、山本隆弘君（5年）、井上香澄さん（1年）、松川瑞樹君（1年）の5名からなるチームは、タブレット端末を用いたプログラミング環境と問題の作成・採点の負担を軽減するシステムを作成し、全国高専プロコン自由部門で特別賞（第3位）を受賞しました。

語学留学の体験報告



私は4学年終了後、1年間休学し、オーストラリアへ語学留学をしました。「1度海外で生活してみたい」、「英語が話せるようになりたい」、「このまま普通に学生生活を終わらせたくない」という気持ちから、留学することを決意しました。初めての海外生活は、言葉が通じず、文化の違いに慣れず、苦勞することもありましたが、毎日が新しい発見で、とても充実した1年間を過ごすことができました。TOEICは300点アップしました。今の私には、世界中にたくさんの素敵な友達がいます。

本当の家族のように常に私のことを気にかけてくれるホストファミリーもいます。1年間休学したため同級生と一緒に卒業することはできませんでしたが、得たものが遙かに多く後悔は全くありません。少しでも興味のある人は、ぜひチャレンジして欲しいです。（情報工学科5年 村上小春）

ETロボコン中四国地区大会で3位入賞



9月20日に開催されたETロボコン2014中四国地区大会デベロッパ部門プライマリークラスにおいて、第3位入賞を果たしました。本大会は、レゴマインドストームNXTで作られた2輪ロボットに倒立やライントレースのプログラムを施すことにより、障害物の走破やS字コースの走行タイムを競う情報系分野に特化した大会です。同クラスには、高専、大学、企業などから13チームが参加し、本校からは、寺岡佑太君、村上小春さん、矢野さくらさん、吉田和真君の5年生4名が出場し

ました。UML（統一モデリング言語）などで設計内容を記述するモデル部門で2位、走行を競う競技部門で3位、総合で3位と健闘し、過去4回の出場で最高の成績を収めました。

情報工学科教員が全国高専教育フォーラムで優秀発表賞を受賞



8月26日～28日に、金沢市アートホールとホテル日航金沢において実施された全国高等専門学校教育フォーラム教育研究活動発表会にて、「標語コンクールを通じた情報モラル教育の取り組み」を発表した本校情報工学科の田房友典教授が優秀発表賞を受賞しました。全国高専機構より12月19日付けで受賞について連絡があり、賞状が届いた1月8日に本校校長室において、校長より田房教授に賞状が授与されました。

タイ王国ナコンパノム大学で海外インターンシップに参加



12月17日～27日の11日間、情報工学科4年生4名(加賀爪宏太君、児谷水希君、福井尚孝君、瀬尾敦生君)と情報系の専攻科生3名(猪野又涼君、澤遥香さん、岡田雅一君)が、海外インターンシップでタイ王国のナコンパノム大学を訪問し、共同プロジェクトを実施しました。本校とナコンパノム大学とは国際交流協定を結んでおり、今回が2度目の訪問になります。

プロジェクトでは、植物の自動灌水・スマホ通知システム、スマホを用いた施錠確認システム、ジャイロセンサを用いた自転車の方向指示システム、小水力発電システムの提案をテーマにタイ人学生と共同で開発に取り組みました。当初は、言葉の壁により思うように作業が進みませんでした。終盤になるとイラストやジェスチャー等を交えて、お互いにコミュニケーションをとる工夫をし、何とか無事プロジェクトを完遂することができました。プロジェクトの発表会には、ナコンパノム大学の学長も出席され、実際に作品のデモンストレーションも行われました。学長からは、「システムの完成度を高めて、是非実用化して欲しい」旨の提案をいただきました。

滞在中は、タイ料理の調理体験、日本の茶道体験、タイ寺院・看護学部・パイロット養成学部の見学など盛りだくさんのイベントを通して、活発な文化交流も実施しました。また、滞在最終日には、日系企業2社を訪問し、タイ王国での苦労話、語学的重要性、失敗を恐れない挑戦するところが大切などの話をお聞きしました。

参加した学生からは「将来に対する自分の可能性を広げられた」、「タイ人の親切さに感動し、微笑みの国を実感できた」、「英語の重要性を認識できた」、「日本(我々)は恵まれている」等の感想が聞かれました。本インターンシップの一部は、学生支援機構の支援を受け実施されました。

愛媛県体育協会優秀スポーツ選手賞を受賞



2月5日に国際ホテル松山において、平成26年度愛媛県体育協会表彰式が行われました。情報工学科3年の白川友理さんが、優秀スポーツ選手賞を受賞しました。この賞は、その年度に活躍した年齢問わず県内のあらゆるスポーツ選手や指導者が対象となっており、大変名誉ある賞です。

今年度の白川さんは、全国高専体育大会陸上競技女子800mの部で優勝、四国高等学校総合体育大会陸上競技女子800mの部で7位入賞など輝かしい成果をあげています。

創造性実験の作品発表会を開催



2月10日、情報工学科4年生の情報工学実験において創造性実験発表会が開催されました。本発表会では、2～3人のグループに分かれ、マイコン（Arduino）と周辺機器を組み合わせて、学生の自由な発想で考案された作品を発表します。企画書の作成や部品の発注を含む作業を、限られた時間と予算の中でスケジュール管理をしながら進めていきます。本年度は、海外インターンシップとコラボした作品もあり、実用性やアイデアに優れた作品が多くみられました。参加した学生は、半年近くかけた作品のでき栄えを互いに評価し合い、充実した発表会となりました。

第2回情報工学科学生表彰を実施



情報工学科では、昨年度から、1～4年生を対象に、顕著な成果をあげた学生を表彰する制度を設けて表彰しています。この賞は、

- ・成績や資格取得などの学業
- ・クラブ、学生会、ボランティア活動、異文化交流などの課外活動
- ・人格、授業や学校行事（特別活動、SHR、補習など）に取り組む姿勢

を総合的に評価し、他の学生の模範となる者に授与されます。今年度の

受賞は、次の通りです。

最優秀学生賞

カルビン（3年）：日本語のハンディキャップの中成績優秀／全国高専プロコン競技部門準決勝進出／ITパスポート合格／高専ロボコン四国ボランティアスタッフ／国際ヨットラリーボランティアスタッフ

優秀学生賞

矢野 祐貴（2年）：成績優秀／基本情報処理技術者試験合格／ITパスポート合格／その他取得資格多数／後期級長

白川 友理（3年）：全国高専体育大会陸上競技女子800m優勝／四国総合体育大会陸上競技女子800m第7位入賞／愛媛県体育協会優秀スポーツ選手賞受賞

瀬尾 敦生（4年）：全国高専プロコン課題部門準優勝／CVG四国優勝／海外インターンシップ参加／ヤフー主催 Hack U Kosen 参加／開発アプリのストア登録（申請中）



国立弓削商船高等専門学校

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000 番地

<http://www.yuge.ac.jp/> 0897-77-4620

題字：馬越 唯（平成23年度情報工学科卒業生）

コンピュータ教育を通して、社会に役立つ「ひとづくり」を目指します。